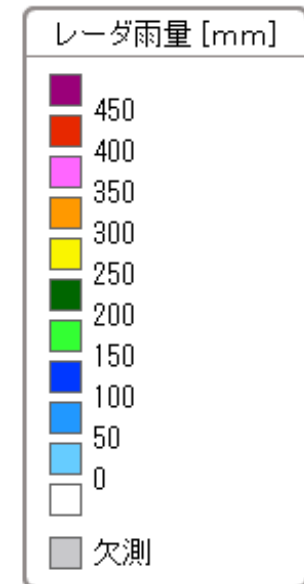
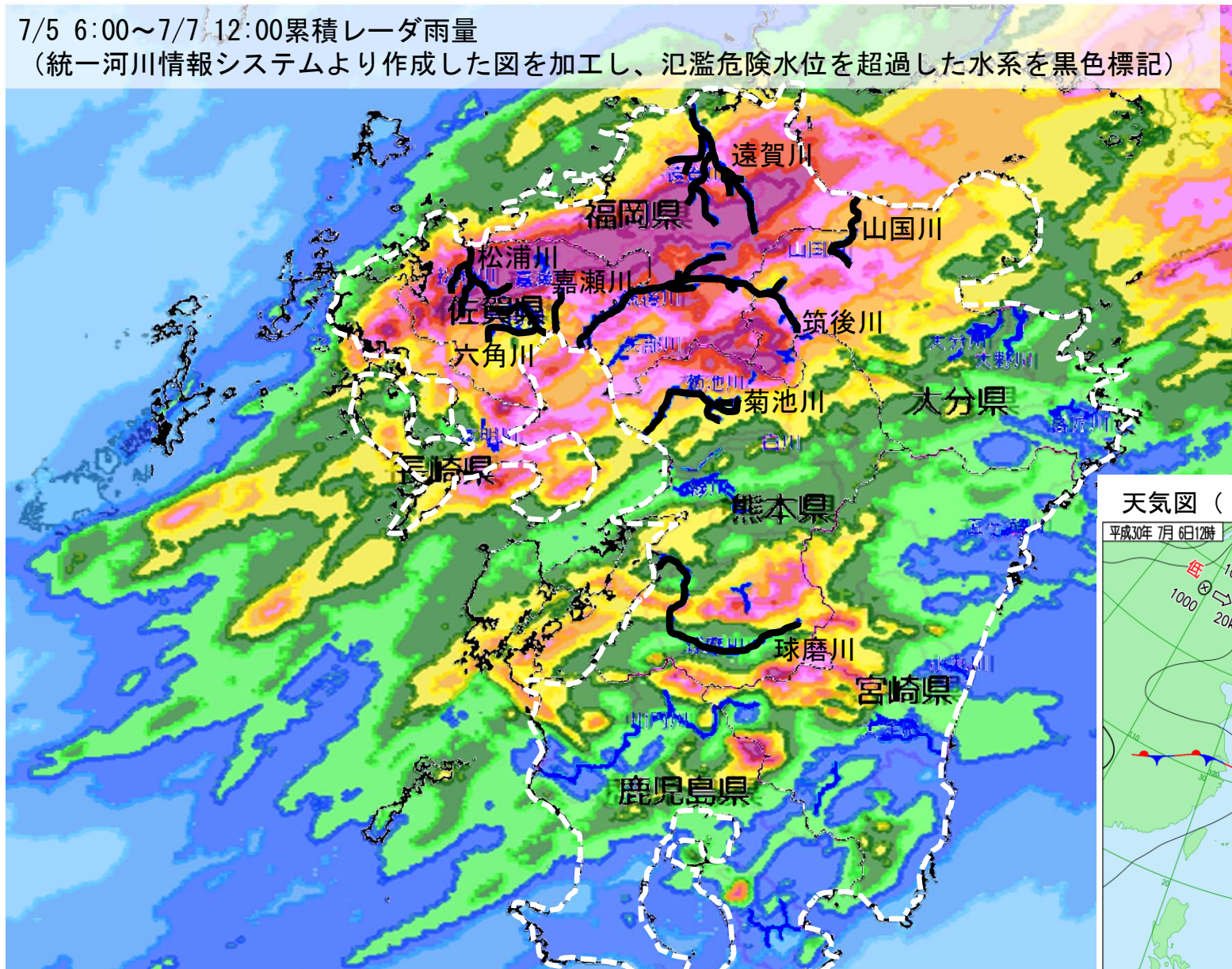


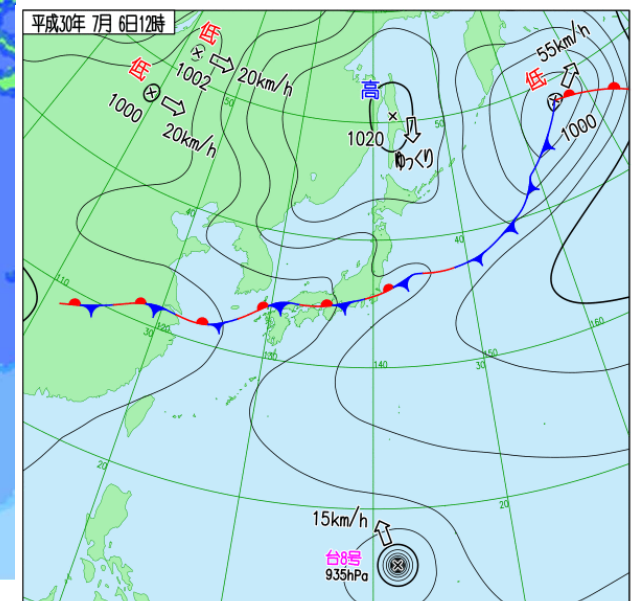
○ H30.7.5 (木) から7.7 (土) にかけて、梅雨前線の活発な活動により九州の広範囲に強い雨域が発生し、多くの雨量観測所で観測史上最多の日雨量を観測する大雨となった。

7/5 6:00～7/7 12:00累積レーダ雨量

(統一河川情報システムより作成した図を加工し、氾濫危険水位を超過した水系を黒色標記)



天気図 (7月6日12時頃、気象庁HPより)



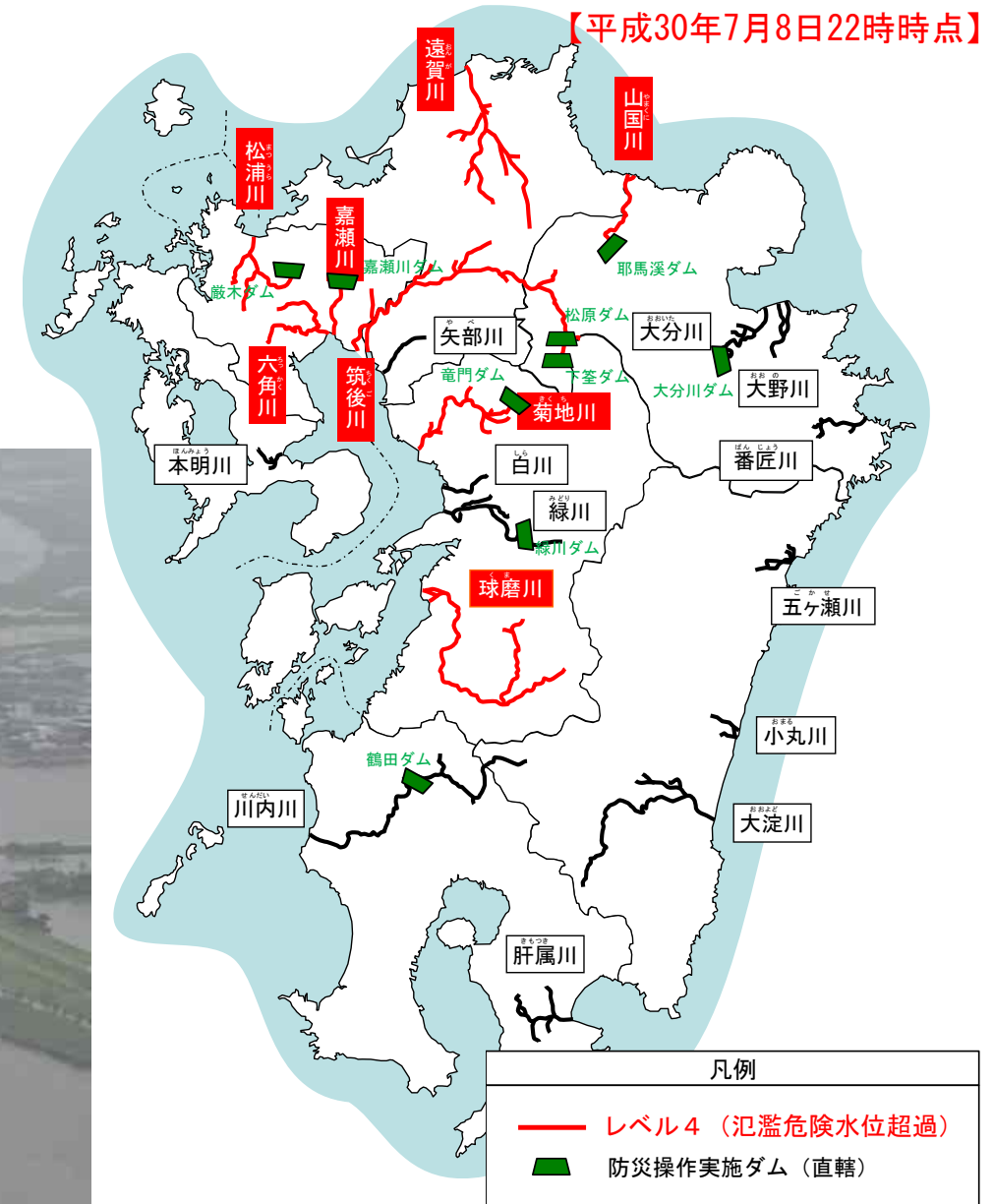
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性がある。

○ 広範囲にわたる大雨の結果、九州内20の一級水系のうち、8水系で氾濫危険水位を超過し、遠賀川、筑後川両水系では9つの水位観測所で観測史上最高水位を観測。

■ 河川出水状況（直轄河川）

レベル4（氾濫危険水位超過）：8河川

- ・ 遠賀川、筑後川、山国川、松浦川、六角川、嘉瀬川、菊池川、球磨川
- ※現在水位は、水防団待機水位以下まで降下



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性がある。

- H30.7.6（金）九州地方整備局管内で、河川の計画高水位超過や土砂崩落による通行止めが発生。
- 九州地方整備局 災害対策本部は、H30.7.6（金）6：50に非常体制（風水害）を発令。



▲ 7月6日（金）6:50 非常体制発令



▲ TV会議で被災状況を確認



▲ 事務所から被災状況を報告



▲ 気象台リエゾンから、最新の気象状況を解説

- H30.7.6（金）～ 状況を的確に把握し、24時間の復旧作業を可能とするため、照明車、衛星通信車等の災害対策用機械を迅速に現地投入し支援を実施。



▲ 衛星通信車により被災箇所状況を直ちに伝送
(国道201号 福岡県飯塚市)



▲ 被災箇所状況を直ちに災害対策本部へ伝送



▲ 夜間の応急復旧工事を可能とする照明車
(国道201号 福岡県飯塚市)



▲ 夜間の応急復旧工事を可能とする照明車
(国道202号 佐賀県唐津市)

- H30.7.7（土）九州地整の防災ヘリ「はるかぜ」で、被災後直ちに福岡県・佐賀県の上空を調査。調査映像は災害対策本部だけでなく、関係自治体にもリアルタイムで情報を提供。



○ H30.7.9（月）中国・四国地方において、甚大な被害が発生していることを受け、先遣班、ドローン調査班、緊急物資輸送・航路啓開班が被災地に向け出発。



- H30.7. 9 (月) ~ 九州地方整備局が保有する清掃兼油回収船「がんだりゅう」を広島湾へ派遣。
- H30.7.10 (火) ~ 広島県竹原港へ入港し、支援物資（給水・非常食等）を陸揚げ。



▲ 支援物資の積み込み 北九州港



▲ 広島湾へ向け出発する「がんだりゅう」(北九州港)



▲ 支援物資の荷下ろし状況① 竹原港(広島県)



▲ 支援物資の荷下ろし状況② 竹原港(広島県)

- H30.7.10（火）～ 特に大きな被害が発生している四国地方の高知県大豊町において、山腹崩壊等による被災状況を把握するため、九州地方整備局TEC-FORCEドローン調査班が現地調査を実施。



▲ 四国地方整備局の砂防チームと合同調査



▲ ドローンの飛行準備及び調査箇所確認



▲ ドローンで空撮した山腹崩壊



▲ 大豊町 岩崎町長へ山腹崩壊による被災状況を説明

○ H30.7.10（火）～ 特に大きな被害が発生している四国地方の愛媛県宇和島市吉田町において、山腹崩壊等による被災状況を把握するため、九州地方整備局TEC-FORCEドローン調査班が現地調査を実施。



「鎮西」 「たちかぜ」 派遣による支援物資輸送体制の強化

○ H30.7.11 (水) ~ 支援物資 (給水・非常食等) の輸送体制を強化するため、九州地方整備局の保有船「鎮西」、「たちかぜ」を広島県江田島市等に派遣。



○ H30.7.12（木）国道201号飯塚市二保（筑豊緑地前交差点付近）で発生した法面崩壊現場において、地元建設業者の協力を得て24時間体制で復旧工事を行い、6日ぶりに全面通行止めを解除。



○ H30.7.12（木）～ 四国地方で発生した道路崩落や土砂崩れなど、各所における被災状況の迅速な把握等を支援するため、道路班、砂防班等、計21名のTEC-FORCEが被災地に向け出発。



▲ 出発に向け最終ミーティング 九州地方整備局



▲ 村岡副局長から派遣命令書を交付



▲ 砂防班 原田班長から決意表明



▲ 被災地に向け出発するTEC-FORCE

○ H30.7.13（金）河川護岸が被災した松浦川水系徳須恵川で、早期復旧に向け24時間体制で応急復旧工事を進め、7月13日に応急復旧が完了。これにより国道202号の通行が7日ぶりに再開。



- 平成30年7月豪雨による災害発生直後から、地域の守り手である地元建設業者が、過酷な作業環境の中、被害拡大防止及び早期復旧のため、土砂撤去や護岸復旧など昼夜を問わず現場作業に取り組んだ。



▲国道202号の土砂・倒木撤去作業（唐津市）



▲国道201号の法面崩壊箇所の復旧作業（飯塚市）



▲松浦川水系徳須恵川の護岸応急復旧作業（唐津市）



▲国道224号の防護柵設置作業（鹿児島市）

○ H30.7.10 (火) ~7.15 (日) 高知県大豊町において、四国地方整備局の砂防チームと合同で、九州地方整備局TEC-FORCEドローン調査班が現地調査を実施し、大豊町長へ被災状況を報告。



△ドローン調査箇所の事前確認



△ドローンの操縦監視

現地空撮
調整官

監視者

操縦者



△ドローンで空撮した山腹崩壊



△大豊町 岩崎町長へ調査結果を報告

○ H30.7.15（日）宇和島市吉田町南君内に位置する溪流4箇所において、二次被害の恐れや応急対策の必要性等を把握するため、九州地方整備局TEC-FORCE砂防班が溪流調査を実施。



- H30.7.16（月）高知県大月町において、九州地方整備局TEC-FORCE道路班が被災状況の迅速な把握や早期復旧に向け、自治体から要請のあった町道の被災状況調査を実施。
- H30.7.13（金）～7.16（月）高知県宿毛市で実施した被災状況調査の報告書を中平宿毛市長へ手交。



▲ 町道泊浦地区内線の被災状況調査（高知県大月町）



▲ 町道泊浦地区内線の被災状況調査（高知県大月町）



▲ 被災状況調査報告書を中平宿毛市長へ手交



▲ 中平宿毛市長とTEC-FORCE道路調査班

○ H30.7.9（月）～7.17（火）航行する船舶の安全確保ため、海洋環境整備船「海輝」^{かいき}「海煌」^{かいこう}により、漁業者及び（一社）日本埋立浚渫協会と連携して有明海・八代海に流出した大量の流木等を回収。



- H30.7.25 (水) ~ 広島県が管理する野呂川、矢野川において、河川の土砂撤去等の支援を行うため、被災箇所の現地調査を実施。被災状況の説明を行い、堆積土砂撤去方法等の助言を行った。

